

令和3年度地域包括支援センター事業評価 様式

(馬橋) 地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	特記項目
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	3.86	<p>「キ」について、業務改善出来た重点項目に○を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数 ○ 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか ○ 地域住民からの虐待通報が上がっているか <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度、認知症予防プロジェクトを新規に開始したケース件数 ○ 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか
評価の根拠	ア. 市町村が定める運営方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか。	いる		
	イ. 事業計画の策定に当たって、市町村と協議し、市町村から受けた指摘がある場合、これを反映しているか。	いる		
	ウ. 市町村の支援・指導の内容により、逐次、センターの業務改善が図られているか。	いる		
	エ. 市町村が設置する定期的な連絡会合に、毎回、出席しているか。	いる		
	オ. 「事業計画」を法人として決定しているか。	いる		
	カ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善を行っているか。(最低月1回チェックしていれば「いる」を選択)	いる		
	キ. 重点項目 5つの重点項目について、前年度事業評価より業務改善(又は達成)出来ているか。 ※この重点項目は除く	2項目以上で改善(又は達成)出来ている		
②担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4	<p>「ウ」が「いる」の場合、ニーズの把握方法を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬橋地区の各地域から入る相談内容を課題分析をしている。 ・令和2年度に比べると、令和3年度は相談件数は減少しているが、馬橋地区の相談件数の増加が目立った。特に、独居男性・生活保護・関わり拒否の相談が多い。中和倉地区は、障害を持つ子供と親の同居世帯が多く、虐待事例も多い。八ヶ崎地区は、3丁目・5丁目からの相談が増えていた。三ヶ月地区の相談件数も増えており、男性・独居の相談が増えた。全体を通して、独居・精神疾患・関わり拒否・見守り希望・地域住民からの相談が増えた。また、築年数の経ったマンションからの相談も増えた。 ・サロン活動を通じて、参加者から情報収集をしたり、民生委員から気になる人の相談を受けている。 <p>「エ」が「いる」の場合、その具体的な内容を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談の分析結果を、民生委員定例会やオレンジ協力員勉強会で伝えた。相談傾向として、コロナ禍で、外出機会が減少した高齢者が多く、閉じこもりの相談内容が増えた事から、地域で気軽に参加できるたまり場作りをした。 ・希望者には、民生委員・オレンジ協力員の見守りに繋いだ。
評価の根拠	ア. 市町村から、担当圏域の現状やニーズの把握に必要な情報の提供を受けているか。	いる		
	イ. 把握した担当圏域の現状やニーズに基づき、センターの取組における重点項目を設定しているか。	いる		
	ウ. 独自に担当圏域のニーズを把握しているか。	いる		
エ. 把握した担当圏域のニーズに基づき、実務実施上の工夫や配慮を行っているか。 【令和3年度の取組が対象】		いる		

③多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		4	2.29	
評価の根拠	ア. 3職種(それぞれの職種の準ずる者は含まない)を配置しているか。(令和3年度4月末時点)	いない	/	
	イ. 年間を通じて3職種(それぞれの職種に準ずる者は含まない)の必要人数が配置されているか。	いない		
	ウ. 市町村から、年度当初までにセンター職員を対象とした研修計画が示されているか。	いる		
	エ. センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場での仕事を離れての研修(Off-JT)を実施しているか。	いる		
	オ. 市、県が行う研修にセンター職員が参加しているか。	全専門職が研修に参加している		
	カ. 職員に対する職場内研修の開催回数(伝達研修は除く)	5		回
	キ. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点	① 32 ② 24 ③ 29 ④ 29 ⑤ ⑥ ⑦ 合計 114 平均 28.5		点
④利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 夜間・早朝の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。	いる	/	
	イ. 平日以外の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。	いる		
	ウ. パンフレットの配布等、センターの周知を行っているか。	いる		

「オ」が「いる」の場合、その研修内容を記載【自由記載】
・4月14日:オレンジ協力員zoom勉強会 13:30~15:30(2名)
・5月14日:初任者研修 9:00~16:00(1名)
・7月8日:認知症を予防する食生活 18:30~20:00(2名)
・7月13日:認知症地域推進員初任者研修 10:00~18:00(1名)
・7月14日:認知症地域推進員初任者研修 9:30~16:00(1名)
・7月16日:令和3年度第1回東葛北部地域認知症疾患医療センター合同連絡協議会(1名)
・8月1日:新型コロナ公開講座講習会(1名)
・9月20日:虐待支援実践の本質に迫る 12:30~13:30(1名)
・10月7日:コロナ禍を踏まえた認知症の方の生活支援(1名)
・10月11日:トーカーセミナーBCP作成研修(1名)
・11月10日:松戸市居宅介護支援事業所連絡協議会 第2回勉強会 14:00~16:30(1名)
・10月28日:地域包括合同研修セルフネグレクト研修(3名)
・11月29日:8050問題オンライン勉強会(1名)
・11月19日:五香松飛台地区多職種ネットワーク会研修(1名)
・10月30日:看取り期とケアマネジメント研修(1名)
・12月7日:地域住民のブレインパフォーマンスを考える会(2名)
・12月17日:地域包括支援センター合同研修会 13:30~16:00(3名)
・2月9日:令和3年度第4回松戸市認知症研修会(1名)
・2月15日:認知症フォローアップ研修(1名)
・2月22日:困難事例法務講演会(1名)
・2月26日:令和3年度認知症疾患医療センター研修会(2名)
・2月28日:精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(1名)
・3月2日:高齢者虐待防止タイプ別支援モデルの活用研修(1名)
・3月22日:合同研修(1名)
・3月28日:アルコール依存症とハームリダクションアプローチおんぷオンライン研修(1名)
/

⑤個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4
評価の根拠	ア. 個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル(個人情報保護方針)を整備しているか。	いる	
	イ. 個人情報が漏えいした場合の対応など、市町村から指示のあった個人情報保護のための対応を、各職員へ周知しているか。	いる	
	ウ. 個人情報の保護に関する責任者(常勤)を配置しているか。	いる	
	エ. 個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか。	いる	
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		4	4
評価の根拠	ア. 市町村の方針に沿って、苦情対応体制を整備し、苦情内容や苦情への対応策について記録しているか。	いる	
	イ. センターが受けた介護サービスに関する相談について、市町村に対して報告や協議を行う仕組みが設けられているか。	いる	
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開しているか。	いる	
⑦プライバシーに配慮した相談環境を整備しているか。		4	4
評価の根拠	ア. 相談者のプライバシー確保に関する市町村の方針に沿い、プライバシーが確保される環境を整備しているか。	いる	

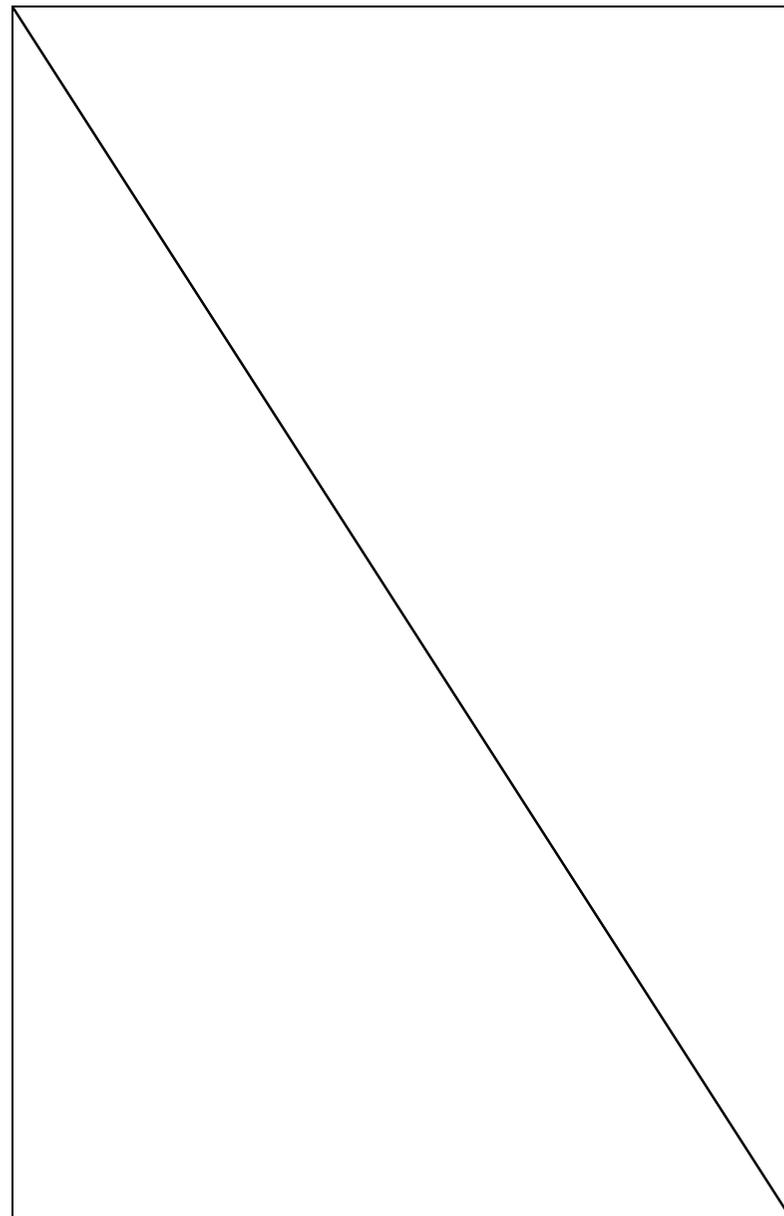
2. 総合相談支援業務

評価項目		回答欄		行政評価	
①地域の社会資源について把握および開発を行っているか。		4		3.25	
評価の根拠	ア. 地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員・連絡先・特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか。	いる		/	
	イ. 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)に関するマップを令和2年度内に更新をしているか。	いる			
	ウ. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等)を行う地域(圏域内・外)の社会資源に繋げた社会資源の数【重複可】	圏域内	36		ヶ所
		圏域外	4		ヶ所
		合計	40		ヶ所
エ. 重点項目 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数。	3		団体		
オ. 社会資源の運営支援を目的として、会議(オンライン含む)に出席した延べ回数。	6		回		
②相談内容の把握・分析を行っているか。		4		3.58	
評価の根拠	ア. 相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか。	いる		/	
	イ. 相談事例の分類方法を、市町村と共有しているか。	いる			
	ウ. 1年間の相談事例の件数を、市町村に報告しているか。	いる			
	エ. 相談事例解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村からの支援があったか。	いる			
	オ. 家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残留して取りまとめているか。	いる			

事例・特記項目
<p>「エ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)・立ち上げ支援の方法の詳細情報を記載【自由記載】</p> <p>【種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン(みんなのくつろぎの場所)三ヶ月、中和倉、八ヶ崎 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ヶ月:オレンジ協力が主となり、地域住民に声掛けをし、おしゃべり・レクリエーション ・中和倉:オレンジ協力が主となり、地域住民に声掛けをし、おしゃべり・レクリエーション ・八ヶ崎:民生委員には接客をして頂き、オレンジ協力員には、サロンへのお誘いや接客、個別支援として、気になる方の自宅を訪問し、状況確認をしている。 <p>【開催回数(週・月〇回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ヶ月:毎月第2水曜日 ・中和倉:毎月第3月曜日 ・八ヶ崎:毎週水曜日 <p>【会議内容等】</p>
<p>「オ」の各社会資源の種類・会議開催日(〇月〇日)・会議内容等の詳細情報を記載【自由記載】</p> <p>【種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> *くつろぎの場所 ・まいにちが日曜日、中和倉サロン、三ヶ月サロン <p>【会議開催日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まいにちが日曜日:5月31日、6月25日、8月6日 ・中和倉サロン:7月19日 ・三ヶ月サロン:7月19日、8月16日 <p>【会議内容等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催曜日・頻度・時間、サロンの運営の仕方、参加費用、利用時の留意点、周知方法、ボランティアの募集

評価の根拠

力. 分類別の相談件数 (高齢者1000人当たりの件数) a.本人又は親族への支援 b.本人又は親族以外の機関への支援	a.本人又は親族への支援 (件数)	
	介護に関する相談	4155
	退院後の生活に関する相談	121
	健康・医療に関する相談	257
	認知症に関する相談	286
	経済的相談	29
	介護予防に関する相談	100
	家族調整に関する相談	33
	権利擁護に関する相談	25
	諸制度や地域の社会資源に関する相談	8
	日常生活(家事・外出等)に関する相談	29
	人・地域との交流に関する相談	19
	安否確認(見守り含む)	117
	介護者の離職防止に関する相談	0
	多分野に関する相談	28
	その他	890
	総計	6097
	高齢者1000人当たりの件数	641.6
	b.本人又は親族以外の機関への支援 (件数)	
	介護に関する相談	680
	退院後の生活に関する相談	61
	健康・医療に関する相談	78
	認知症に関する相談	25
	経済的相談	17
	介護予防に関する相談	24
	家族調整に関する相談	9
	権利擁護に関する相談	29
	諸制度や地域の社会資源に関する相談	1
	日常生活(家事・外出等)に関する相談	4
	人・地域との交流に関する相談	3
	安否確認(見守り含む)	63
介護者の離職防止に関する相談	0	
多分野に関する相談	31	
その他	404	
総計	1429	
高齢者1000人当たりの件数	150.4	



③相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。		4	3.4
評価の根拠	ア. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断しているか。	いる	
	イ. 全ての相談事例において、緊急性に变化がないか、3職種で定期的に確認・共有するしくみを整備しているか。	週1回実施している	
	ウ. 全ての相談事例において、必要に応じ他分野との連携を図っているか。 ※他分野とは、警察、消防などの機関、済困窮や就労、母子関係部署、法律家などを示す	いる	
	エ. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を毎月行い、市(基幹型)に報告する仕組みはあるか。	報告する仕組みがあり、緊急度チェックリストに該当したケースは概ねモニタリング予定表を市に提出している	
	オ. 地域で開催される行事等(出張相談窓口も含む)において、相談ブースの開設を行っているか。	開設し、相談者が1人以上	

<p>毎週1回、3職種が集まる会議を開き、そこで各自の相談事例を確認・共有している。</p> <p>また毎朝、それぞれの新規事例や継続の困難事例・継続事例・新規事例等の進捗状況や大きな変化があった場合は共有している。</p> <p>その他不定期に、緊急性が生じた場合や変化しそうなケースについてはその都度3職種で情報を確認・共有している。</p>
<p>「ウ」が「いる」の場合、その具体的な連携先、内容を記載【自由記載】</p> <p>【具体的な連携先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域サポート医、病院、松戸警察署生活安全課、松戸東病院生活安全課、松戸消防署救急、松戸保健所、消費生活センター、ほっとねっと、おんぶ、CoCo、在宅医療・介護連携支援センター、しくなるあいず <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療拒否・認知症の方への往診依頼・病院受診・主治医意見書等の連携を行う。 ・入院患者の退院後の生活支援、介護保険申請についての連携を行う。また、通院患者で支援が必要と思われる方の生活支援、介護保険申請についての支援を行う。 ・通院患者の安否確認、通院患者で支援が必要と思われる方の生活支援を行う。 ・退院前のカンファレンス参加やケアマネ紹介を行う。精神疾患のある方の入院や支援、退院後の生活支援を行う。 ・虐待ケースでの連携、自宅で孤独死をした方の対応での連携、徘徊高齢者の対応と連携を取る。 ・日常生活自立支援、自立相談支援センター、生活福祉資金貸付事業との連携。 ・8050、7040世帯の支援において情報共有をし連携を取る。 ・市民に消費者被害、詐欺防止の注意喚起を促す為に、定期訪問をし、状況確認を行う。 ・後見人の選定などの支援。

3. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	事例・特記項目
①成年後見制度の活用を促進しているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 成年後見制度の市町村長申し立てに関する判断基準が、市町村から共有されているか。	いる		
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 高齢者虐待事例及び高齢者虐待を疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか。	いる		
	イ. センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論及び報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか。	いる		
③消費者被害の防止に関する啓発・取組を行っているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、対応しているか。	いる		
	イ. 消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。	いる		

④その他、権利擁護に関する取組を行っているか。		4		3.35
評価の根拠	ア. 権利擁護(高齢者虐待防止市民向け講演会を含む)に関する講演会の開催回数・参加者数。	a開催回数	5	回
		b参加者数	240	人
	イ. 高齢者虐待防止のため、男性養護者支援(社会資源の育成、社会資源の周知等)を実施しているか。※個別支援は含まない	いない		
	ウ. 重点項目 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか。 ※全地域包括合同の高齢者虐待防止市民向け講演会以外の高齢者虐待防止に関する講演会、パートナー講座、講演会DVDの貸出、各会議での研修等が対象。	いる		
エ. 重点項目 地域住民からの虐待通報は上がっているか。 ※地域住民は家族、虐待者、被虐待者、民生委員、近隣住民、知人を指す	いる			

「イ」が「いる」の場合、その支援方法を記載【自由記載】
「ウ」が「いる」の場合、その詳細(日時・内容・対象者等)を記載【自由記載】 【日時】 ・オレンジ協力員勉強会・民生委員定例会・地域サロン・認知症サポーター養成講座開催時 【内容】 ・松戸市作成のDVD&虐待防止パンフレットの説明 【対象者等】 ・オレンジ協力員、民生委員、サロン参加者、認知症サポーター養成講座参加者

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目		回答欄	行政評価	事例・特記項目	
①地域の介護支援専門員の状況把握・連携が図れているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握しているか。	いる			
	イ. 介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示しているか。	いる			
	ウ. 介護支援専門員に対するアンケート・意見収集等について市町村からの情報提供や、市町村による研修会の内容等を踏まえ、地域の介護支援専門員のニーズや課題に基づく事例検討会や、個別事例を検討する地域ケア会議等を開催しているか。	いる			
	エ. 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者(例:医療機関や地域における様々な社会資源等)との意見交換の場を設けているか。	いる			
	オ. 介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか。	いる			
	カ. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握しているか。	いる			
②地域の介護支援専門員に対して、個別指導・相談・助言を効果的に行っているか。		4	1.67		
評価の根拠	ア. 令和3年度、1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数。	単独	4		回
		合同	0		回
		合計	4	回	
	イ. 同行訪問による個別指導・助言の件数(サービス担当者会議への出席は除く)。(高齢者1000人当たりの件数)	合計	111	件	
		高齢者1000人当たりの件数	11.7	件	
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数。(高齢者1000人当たりの件数)	合計	17	件	
高齢者1000人当たりの件数		1.8	件		

5. 地域ケア会議関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	事例・特記項目
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。		4	3.75	「ク」が「実施している」場合、その具体的方策を記載【自由記載】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域個別ケア会議のために、居宅介護支援事業所のケアマネに対して、支援や同行の際に、対応に苦慮しているケースや皆で検討が必要なケースなどを会議で話し合う事例として提出の協力をさせていただく。 ・事例提供をいただいたケアマネとは、事前に内容の確認をし、検討内容のすり合わせを行い、話し合いのポイントや今後の地域課題を導き出せるようにしている。 ・地域包括ケア推進会議で話し合う地域課題では、事例で話し合い抽出した課題を元に、地域包括内で検討し選定している。
評価の根拠	ア. 地域ケア会議が発揮すべき機能、構成員、スケジュール等を盛り込んだ開催計画が市町村から示されているか。	いる		「ケ」が「いる」の場合に、参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種を記載 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットシッターのボランティア組織代表者
	イ. センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員・会議参加者・地域の関係機関に対して周知しているか。	いる		
	ウ. センター主催の地域ケア会議において、個別事例について検討しているか。	いる		
	エ. センターの主催の地域ケア会議において、多職種と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか。	いる		
	オ. 市町村から示された地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で対応しているか。	いる		
	カ. センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか。	いる		
	キ. 地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングしているか。	いる		
ク. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定しているか。	いない		「コ」が「実施している」場合、①職種②意見を聴取した方法③ケア会議内での意見反映方法を記載 <ul style="list-style-type: none"> ①医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、町内会長、民生委員、サービス事業所 ②事前に事例資料を配布する際に、同時に出席できない方にも意見を記入していただく用紙を送付。FAX又は、メールで送っていただくようにしている。 返信が来ていない際は、直接電話で意見を聴取している。 ③地域ケア会議の進行に合わせて、それぞれの意見を司会者が口頭で紹介している。 	
			「サ」が「いる」場合、運営方法や工夫点を記載【自由記載】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域個別ケア会議の事例は、ケアマネが課題を抱えている事例を取り上げている。 ・ケアマネが相談しやすい関係作りを日頃より務めている。 ・個別ケア会議では事例提供者に、どんな意見が役に立ったかの感想をいただく。後日、ケアマネにモニタリングし、必要に応じて継続的に支援を行っている。 	

	ケ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定しているか。	いる	
	コ. 地域個別ケア会議、推進会議において出席できなかった方へ、事例やテーマに即した意見を直接聴取し、会議内でその意見を共有しているか。	全ての会議で実施している	
	サ. 地域個別ケア会議において、介護支援専門員が事例提供を行い、介護支援専門員が会議を通じて支援を受けられる運営を行っているか。	いる	
	シ. 地域個別(自立支援型含む)ケア会議において、写真・映像等を用いて、会議を開催しているか。※検査結果データ、お薬手帳コピー含む	いる	
	②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。	4	4
評価の根拠	ア. センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。	いる	
	イ. センター主催の地域ケア会議における検討事項をまとめたものを、市町村に報告しているか。	いる	
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、必ず地域包括ケア推進会議で報告しているか。	いる	

<p>「シ」が「実施している」場合、具体的な取組等を記載【自由記載】</p> <p>・映像は使用する機会がなかったが、写真や必要な資料は事前に参加者に郵送している。</p>
<p>※地域包括ケア推進会議での協議後、実際に地域包括が取り組んだ実績があれば記載【自由記載】</p> <p>・ペットや地域猫についての理解やペットボランティアの役割について、「ペット保護ボランティアの意見交換会」を紹介するときに関心を持ってもらえるように伝えた。</p> <p>・ペットボランティアの利用が必要と思われる高齢者には個別に声がけをして利用につながった。</p>

6. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援関係業務

評価項目		回答欄		行政評価	事例・特記項目
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。		4		3.2	
評価の根拠	ア. 自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市町村から示された基本方針を、センター職員及び委託先の居宅介護支援事業所に周知しているか。	いる			
	イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけたことがあるか。	いる			
	ウ. 利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか。	いる			
	エ. 自立支援型個別ケア会議への出席回数	回数	4	回	
		延べ人数	5	人	
オ. ケアマネジメントC作成件数。	0		件		
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		4		4	
評価の根拠	ア. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針が市町村から示されているか。	いる			
	イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録及び進行管理を行っているか。	いる			
	ウ. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するための工夫を行っているか。	いる			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目		回答欄		行政評価	
①医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。		4		3.7	
評価の根拠	ア. 医療関係者と合同の事例検討会に参加しているか。	いる			
	イ. 医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加しているか。	いる			
	ウ. 在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対し、相談を行っているか。	いる			
	エ. 地域サポート医へ相談を行った件数				
	a.相談支援件数	相談支援件数	390		件
		内、サポート医事業	18		件
	b.アウトリーチ件数	アウトリーチ件数	0		件
オ. 在宅医療・介護連携支援センターが開催する研修会にセンター各職員(事務員は除く)が一度は参加しているか。		いる			

事例・特記項目
/

8. 認知症高齢者支援業務

評価項目		回答欄		行政評価
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。		4		3.25
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	いる		
	イ. 地域包括支援センター自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施しているか。	いる		
	ウ. 地域包括支援センター自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数	5	件	

事例・特記項目
/

エ. 重点項目 令和3年度認知症予防プロジェクトにおいて、新規に開始したケース件数 (高齢者人口1000人当たりの件数)	件数	4	件	
	高齢者1000人当たりの件数	0.4		
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。		4		3.5
評価の根拠	ア. 「専門職と協力しながらの実践活動」を行った、オレンジ協力員の延べ人数	延べ人数	513	人
	イ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の開催回数・日程・主な対象者・参加者数。 (人口10,000人当たりの参加者数)	参加者合計人数	80	人
		人口10,000人当たりの人数	20.4	
	ウ. 重点項目 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか。 ※認サポアンケートの関係上「50代以下」を集計対象とする	65歳未満参加者	32	人
エ. 認知症地域支援推進員として、認知症高齢者の社会参加のための取組みを行っているか。		いる		

「イ」
 ・開催回数: 22回
 ・日程:
 6/2,9/1,12/1,3/2,4/14,5/12,6/9,7/14,10/13,2/9,3/9,4,21,5/19,7/21,8/18,9/15,10/20,11/17,12/15,1/19,2/16,3/16
 ・主な対象者: 一般市民
 ・参加者: 80人

「ウ」が「1人以上」の場合は、その詳細(65歳以下 参加者総数・主な対象者・実施時の工夫点等)記載【自由記載】
 【65歳以下 参加者総数】
 ・32人

【主な対象者】
 ・一般市民

【実施時の工夫点等】
 ・サポーター養成講座の開催前に、参加者に参加理由のきっかけを伺い、内容に沿った話しを講座の中で触れる様になっている。
 ・認知症と思われる方の声掛けや対応の仕方について、参加者型の講座を進めた。

「エ」が「いる」の場合は、具体的な取組内容を記載【自由記載】
 認知症初期集中支援で関わった方に、閉じこもりの生活から、外出する機会を設けて頂き、多世代型集いの場の『まいにちが日曜日』の参加を勧めた。また、曜日等の記憶力が低下している方には、当日送迎する事で参加が可能になっている。夫婦で参加された方は、コーヒーを飲みながら会話を楽しまれ、社会参加が叶った。今後も時々足を運びたいという意向も聞いている。

9. 松戸市指定事業等

評価項目		回答欄	行政評価	事例・特記項目
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。		4	3.83	
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室の開催回数及び参加者数。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数)	参加者数 498	人	<p>【ア】の実施回数及び最も効果的な活動を1つ記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 24回 ・最も効果的だった活動(1つ) <p>【教室名】 コグニサイズ 【参加者数】 32人 【日程】 R3年5月11日 【内容】 前半の1時間は、介護予防体操実施。後半の30分は、初めてコグニサイズを実施。コグニサイズの意義を説明した。研修で学んだ内容から、頭を使いながらの指先体操、全身体操、輪になって歩きながらの全員参加型しりとり等を参加者に合わせて実施した。 【効果】 前半は、筋力維持・向上に繋がりが、転倒予防、健康増進に繋がった。後半は、認知症予防もしくは進行予防に繋がった。参加者からは、「コグニサイズは初めてで、とても楽しかった」「頭で考えながら同時に体を動かす難しさを実感した」「楽しく認知症予防が出来てとても良い」との声が聞かれた。</p> <p>毎回、前半は、理学療法士からの効果的な筋力アップを目的とし、後半は、地域包括や講師を招いての頭を使いながらの楽しく出来る体操や運動を盛り込み、毎回、参加者に楽しんで頂けるようにと、工夫を凝らしている。大変好評の為、参加出来ない申込者も多い。</p>
	高齢者 1000人当 たりの人数 52.4			
	イ. センターが開催する認知症予防教室の開催回数、参加者数及び参加者の活動継続割合。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数)	a.参加者 人数 166	人	<p>【イ】の実施回数及び最も効果的な活動を1つ記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 6 ・最も効果的だった活動(1つ) <p>【教室名】 口腔ケアと認知症 【参加者数】 23人 【日程】 R3年10月19日、10月26日 【内容】 10/19 1)目的の共有、地域包括支援センターについて、2)「口腔ケアと認知症」の講話、3)認知症予防に効果的なセルフケアや活動について 10/26 認知症予防に効果がある運動・活動(ストレッチ、音楽、体操、コグニサイズ、歌など)の実践 【効果】 講師として歯科医師に依頼させていただき、口腔ケアと認知症についてのお話をいただいた。内科医師の講話と同様に非常に参考になったとの感想をいただいた。また2日目の認知症予防運動と活動は、毎回工夫を凝らして飽きない取組みが大変好評で、今年度の高い活動継続者数につながっている。</p>
	高齢者 1000人当 たりの人数 18	※活動継続者割合(%)=活動継続者数(実数)/教室参加者数(実数)×100		
	ウ. ボランティアの育成をしているか。 (オレンジ協力員への支援は除く)	b.活動継 続割合 96.8	%	
エ. 地域包括支援センター主催による介護者のつどいの開催回数	4	回	<p>【ウ】が「いる」の場合、育成内容を記載【自由記載】 まいにちが日曜日の開催にあたり、地域の民生委員・民生委員の知り合いの地域住民にボランティアの依頼をした。話し合いから参加して頂き、どの様に運営をしていくかを一緒に考えた。</p> <p>【エ】が「いる」場合、開催内容を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能の向上・低栄養を防ぐ食生活のヒント ・「回想法」いきいきとした心を取り戻しましょう ・「回想法」好評につき、第2弾 ・落語で「笑い・脳の活性化」 	

②生活支援コーディネーターや協議体と連携した取組を行っているか。	4	4
<p>評価の根拠</p> <p>ア. 生活支援コーディネーターや協議体・地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。</p>	いる	

